

筑後一の宮 高良大社





御祭神（三座）

左 八幡大神
はちまん おおかみ

中央 高良玉垂命
こうらたまたれのみこと

右 住吉大神
すみよし おおかみ

んが、筑前・筑後・肥前三国に広がる九州最大の筑紫平野の中央に突出し、地政的に絶好の位置を占め、古代より宗教・政治・文化の中心、軍事・交通の要衝として歴史上極めて大きな役割を果たして来ました。山下には筑後川（別称、筑紫次郎）が悠々と流れ、この大河の造った大穀倉地帯を一望のもとに納めることのできる眺望の雄大さはほかに較べようもありません。

古く「肥前風土記」に景行天皇が西狩の際、高良の行宮にまして四隣を經營され、神功皇后も山門征討に当り山麓の旗崎にこられたと伝えられています。また継体天皇の時、筑紫君磐井の乱にあっては、高良山麓が戦いの最後の舞台となり（日本書紀）、大化改新以後は、山麓の合川町・御井町に筑後国府が置かれ、近くの国分町には国分僧尼寺も建立されました。南北朝時代には、征西將軍宮懐良親王はこの山を本陣として敵を筑後川畔に破り、後ここに征西府を移されたこともありました。更に戦国時代に入ると豊後の大友氏がしばしばこの地に陣して肥筑の諸豪を制圧し、豊臣秀吉も九州征伐に際して吉見嶽（高良山支峰）に陣を敷きました。これらの史実を考えあわせると高良山は九州の要であり、高良山の動向が九州を左右したことが明らかとなります。高良山はまさに「タカラの山」であったわけです。

一、御事歴

一、御鎮座
社伝によれば御鎮座は仁徳天皇五十五年（三六七）または七十八年（三九〇）といわれ、履中天皇元年（四〇〇）に御社殿を建てて祀ったとあります。しかし山内からの出土遺物からは、さらに古くさかのぼることが出来ます。おそらく筑紫平野に人々が移り住むと同時に高良山は神々の鎮まる山と考えられたことでしょう。

一、御神徳

古くから、筑紫の国魂として、また筑紫路の交通の要衝をつかさどる守護神として人々の生活をお守り下さるとともに、延命長寿厄除の神として、厚く信仰されてきました。ことに村ごとに神剣を奉戴して悪霊を祓う「お杖さん」の信仰や、六月一日・二日の川渡祭（へこかきまつり）に厄除・延命長寿の御霊験のあらたかさをうかがうことが出来ます。近年は交通安全の守り神としての信仰が益々さかんとなっています。

一、高良山

高良大社の鎮まる高良山は、別名を高牟礼山・不濡山とも呼ばれ、ここを起点として背後に耳納山脈が広がっています。標高三二二メートルと、それ程高い山には感じられませ

当社は延喜式内名神大社で、古くは「高良玉垂宮」と申しました。歴代皇室の御尊崇たいへん篤く、嵯峨天皇の弘仁九年（八二六）十一月名神に列し、神階は貞観十一年（八六九）三月従一位、宇多天皇の寛平九年（八九七）には正一位へ進まれました。鎌倉時代まで御造営はすべて勅裁によって行なわれ、筑後国一の宮・九州総社・鎮西十一ヶ国の宗廟と称えられました。文永・弘安の蒙古襲来には勅使が参向され、蒙古調伏なるや叡感あつて「天下の天下たるは、高良の高良たるが故なり」との綸旨を賜わったと伝えられます。また十月の大祭には太宰府から勅使が立ち九州九ヶ国の国司・郡司が参集して奉仕するを例としました。南北朝争乱の時代にも小式・菊池・大友・島津の九州四大豪族が「四頭」に任ぜられ、輪番に祭事を執り行なっていました。御神幸祭は称徳天皇の神護景雲元年（七六七）十月、勅裁によって始められました。中世には当社に属する侍百二十名、国侍三十六名、その他筑後一円の神職、社人はもとより、商工業者・村役人・武士団・芸能者など供奉の者一千余人という盛儀になりました。戦国の争乱で荒廃しましたが、江戸時代になると歴代久留米藩主の崇敬を受け、第二代有馬忠頼公は山下の大鳥居、第三代頼利公は現在の御社殿、第七代頼愷公は中門・透塀をそれぞれ造営寄進しました。また江戸時代の中期寛政四年から五十年に一度の祭礼として「御神期祭」が盛大に執り行なわれ今日に続いています。近代では、明治四年国幣中社に、大正四年には国幣大社に昇格しました。昭和五十一年には本拝殿解体修理工事が完了、平成十九年三月に平成の御造営事業が終了。諸施設も整いつつあり御神威はいよいよ盛んとなっています。

一、主なる祭典行事

大祭

祈年祭

二月十七日

崇敬会大祭

九月中旬

例祭(供日祭)

十月九日

・十日・十一日

新穀感謝祭(新嘗祭)

十一月二十三日

中祭

歳旦祭

一月一日

元始祭

一月三日

紀元祭

二月十一日

昭和祭

四月二十九日

明治祭

十一月三日

天長祭

十二月二十三日

小祭

神火祭

一月一日

玉替祭・成人祭

一月上旬

鏡開祭

一月二十一日

川渡祭―へこかきまつり―

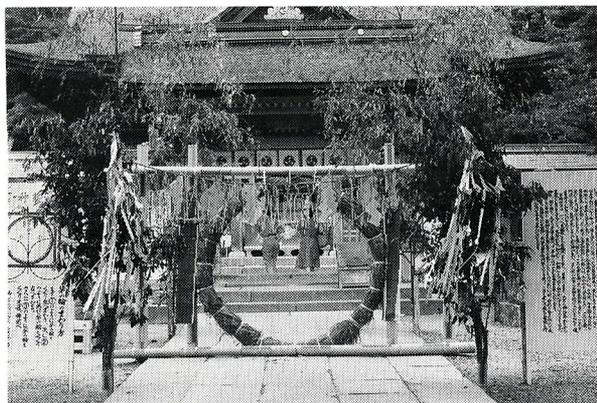
六月一日・二日

七五三子供祭

十一月十五日

大祓式・除夜祭

十二月三十一日

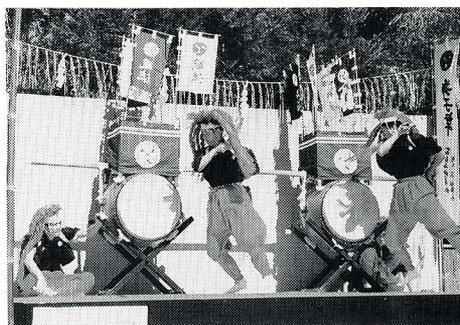


へこかき祭 6月1日・2日

例大祭(供日祭) 10月9日~11日



〔獅子舞〕



〔風流〕

行事

つつじ祭

四月二十九日

献燈祭

八月一日~三十一日

撰末社例祭

四月十日・九月十日

琴平社

七月二十三日

愛宕社

十一月二十三日

桃青霊神社

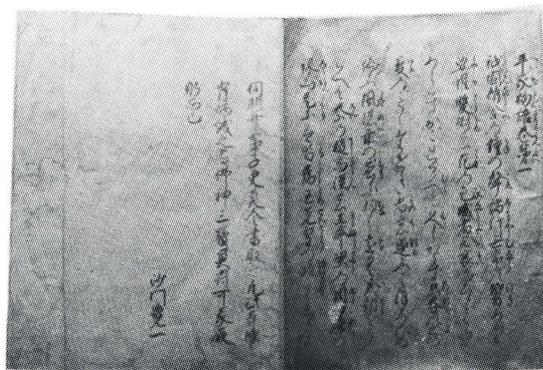
十一月二十三日

一、宝物

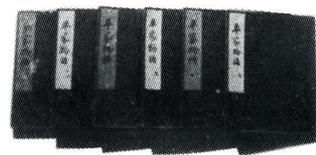
- 紙本墨書平家物語(覚一本、重要文化財) 十二冊
 - 絹本着色高良大社縁起(「画縁起」県指定文化財) 二軸
 - 高良大社所蔵文書(県指定文化財) 十卷一冊
 - 三角縁三神三獸鏡 二面
- この他、多数があり、宝物館に収蔵・展示しています。



三角縁三神三獸鏡



平家物語



一、高良山と仏教

もともと高良山は伊勢両宮に同じく、仏教を固く禁じていたといわれますが、天武天皇の白鳳二年二月、神部物部道麿の子美濃理麿に神託があり、大祝家の三男隆慶を妻帯のまま社僧としました。隆慶の子孫は神宮寺高隆寺(後、御井寺)にあって、高良山座主を称し、四十八世まで血脈を伝えました。山内二十六ヶ寺、三百六十坊、一千余名の僧徒を支配し、大変な勢力を有したということです。なお、江戸時代には日光法親王輪王寺宮が座主を任命、幕末五十九世に及びました。

明治二年、排仏毀釈により、座主は廃止され、寺坊は取り除かれ、仏像などは山下の諸寺院に移されました。なお、御井寺は明治十一年に山麓の御井町に再興され現在に至ります。

1. 石造大鳥居 (重要文化財)

明暦元年(1655)久留米二代藩主有馬忠頼公が寄進されました。石材は領内の十五才から六十才までの男子延十万人が運んだということです。

2. 御手洗池

古くから神さまが手水を使われたと伝えられ「御手洗」の名が起りました。池の中島には巖鳥居が祀られています。

3. 祇園山古墳 (県指定史跡)

東西約25m、南北24m、高さ約6mの方墳です。二段の葺石を有し、墳丘の周囲には六十基以上の石蓋土壌等の棺が発見され九州でも最も古い方墳です。

4. 第二鳥居

参道と自動車道が分岐する所に建てられた鳥居で、昭和44年9月に江崎 証氏を始め多数の方々の寄進によるものです。これより山内は清浄さが最も大切にされます。

5. 自動車道

昭和8年より36年にかけて完成された参拝車で、今は耳納スカイラインに通じております。

6. 礫山古墳

古墳時代前期の古墳。この古墳の石棺は、岩盤に四基分棺を掘り込んだ特殊なもので、内部には朱が塗られていました。

7. 桃青霊神社

俳聖、松尾芭蕉を祀ります。隣接して宮地嶽神社があります。芭蕉を神としてまつたのは全国でも、ここが最初といわれています。

8. 愛宕神社

愛宕神社は、京都府愛宕山の神で、火伏せ、火難除けの神として広く信仰されておりますが、特に牛馬の守護神としても篤い信仰を集めております。寛文11年(1671)に現在地に鎮座されました。

9. 岩不動 [三尊磨崖種子] (市指定文化財)

愛宕神社の鳥居をくぐり左に折れた所、南側の一枚岩に仏を表わす種子が刻まれています。中央が地藏菩薩、左右は不動・毘沙門の三尊です。

10. 大学稲荷神社

筑前・筑後稲荷十社の筆頭といわれ、明和8年(1771)伏見から勧請されました。稲荷神社は、もともと穀物の神でしたが、その後、商売繁昌の神として御利益いちじるしと、庶民に親しまれています。

11. 孟宗金明竹 (国指定天然記念物)

金明竹(緑と淡い黄色が竹の節間に交互に現われた竹)は、全国にありますが孟宗竹は、ここを含めて四ヶ所だけです。

12. 三ノ鳥居・本坂

131段の急な石段です。古くは、この石段より南にある下向坂が本参道であったかと思われませんが、現在は、この石段が正面です。わきに修復工事寄進者名の入った石碑があります。

13. 高良山展望台

高良大社石段下の駐車場や高良会館6階展望台からの筑紫平野の眺望はすばらしく、終日参拝者でにぎわいます。



中門・透塀



御手洗池



神籠石



旧宮司邸 (蓮台院御井寺跡)



大学稲荷神社

14. 高良会館

昭和40年、崇敬者・参拝者の増加にともない休憩所・婚儀殿等の多目的利用をめざして建設されました。山内では、この6階建の建物が一際大きく見えます。

15. 中門・透塀

七代藩主有馬頼幢が安永6年(1777)に寄進しました。朱の色が本殿背後の樹々の緑によく映えます。

16. 本殿・幣殿・拜殿 (重要文化財)

万治2年(1659)から同4年にかけて、久留米藩主有馬頼利公の寄進により造営され、柿葺、権現造の社殿は、江戸時代初期の特色をよくとどめています。なお、拜殿・幣殿の格天井絵は狩野白信が宝暦5年(1755)に描いたものです。

17. 神籠石 (国指定史跡)

御本殿の背後から山裾まで約1500mにわたって、1300個の巨石が神域を取り囲むように列っています。このような列石は、福岡・佐賀・山口県で八ヶ所確認されており、古代の山城跡とも、神域の標示ともいわれ、わが国古代遺跡中最も壮大なものです。

18. 大樟 (県指定天然記念物)

元来は二本であったものが地際で癒合。根廻り30.5m、標高23.5m、樹齢数百年と推定。

19. 下向坂石段

麓から参道を登ってきますと、この石段下に出ます。右手に宝塔院跡があります。

20. 歴代座主墓 (御井寺所有)

高良山歴代座主が眠る墓地で初代隆慶上人から五十八世亮純までの墓や供養塔などがあります。

21. 旧宮司邸・蓮台院御井寺跡

高良山は神の山であるとともに仏の山でもありましたが排仏毀釈により明治2年、仏教は高良山から追放されました。それ以前の高良山仏教の中心がここでした。

22. 伊勢御祖神社

延喜式内当国所在四座の内の一座であり、古くは現御井小学校「伊勢の井」付近に在りましたが、江戸時代この地に移転しました。

23. 馬蹄石

高良の神が御鎮座のはじめ、神馬の蹄の跡を残されたと伝えられる巨石で、古くはこの石が「神籠石」と呼ばれていました。

24. 昭和大嘗会主基地方風俗舞歌碑

25. 琴平神社・吉見嶽城跡

吉見嶽は桜の名所として知られています。中世の山城で、大友宗麟・豊臣秀吉も陣を張りました。今日、本丸には琴平神社がまつられ、永世和平碑があります。

26. 参道

片道徒歩約20分を要します。高良神鎮座以来、幾百万人が、この参道を歩んだことでしょうか。

27. 奥宮

「奥の院」と呼ばれる、霊水が湧く聖地で、高良大社の奥宮です。諸願成就の神として民間の信仰きわめて篤く、現在も「寅」の日には多数の参拝があります。